

令和6年度 第2回市民参加推進会議 議事録

1. 開催日 令和6年11月13日(水) 午前10時00分～午前11時30分

2. 開催場所 浦安市役所10階 協働会議室

3. 出席者 (委員) 関谷会長、野田副会長、牧野委員、塩谷委員、
木原委員、泉澤委員、丸山委員、木川委員
(事務局) 高柳部長、玉野次長、大塚課長、飯塚係長
森主事、春本主事

4. 議事次第

(1) 令和5年度市民参加に関する事業実施状況報告について

(2) 令和5年度市民参加に関する事業の実施状況調査(追加調査)について
報告事項

(1) 次期市民参加推進計画に伴う市民意識調査の状況について

5. 配布資料

(会議資料)

資料2-1-1 令和5年度市民参加に関する事業実施状況報告

-2 令和5年度市民参加に関する事業実施状況報告について

-3 「第3期市民参加推進計画」計画目標別令和5年度事業実績
(事業区分別内訳)

-4 「第3期市民参加推進計画」計画目標別令和5年度事業実績
(年度別)

資料2-2-1 市民参加に関する事業の実施状況調査票令和5年度新規事業
一覧

-2-2 「第3期市民参加推進計画」の進行管理に関する意見シート

-2-3 「第3期市民参加推進計画」の進行管理シートB

資料2-3 次期市民参加推進計画策定に伴う市民意識調査の状況につ
いて

6. 議事概要

<議題>

(1) 令和5年度市民参加に関する事業実施状況報告について

■説明（事務局）

事務局より資料2-1について説明を行った。

■主な意見

委員：計画目標4は、まちづくりのうえで市民だけ、行政だけでなく一緒になってやっていくという部分で最も肝心なところだと考えているが、計画目標4に関わっている担当課というのは、市民参加推進課がほぼ占めているのか。

事務局：市民参加推進課も含んではいるが、例をあげると、「地域とつながる教育活動推進事業」（指導課）や、境川沿い自治会や環境活動団体等による「境川かわまちを進める会」（道路整備課）の開催などがある。

市民参加推進課に偏っているわけではないが、他の計画目標と比較すると薄い部分にはなる。

委員：事業数でみていくと、令和5年度は増加傾向にある。ただ、令和元年ごろと比較すると少ないが、事務局としてはやはりコロナの影響により減っていたものが回復傾向にあると捉えているのか。

事務局：そのように考えている。コロナ禍で制限されてきた団体としての活動が、5類移行等により徐々に活発化してきたところではある。

委員：全体の傾向として、「後援」が増えているということは、市として市民や団体、企業などへのバックアップが増えていることを意味する。ポストコロナ時代において、そういう動きが出てきている点は非常に高く評価できる。それ以外のところも横ばい傾向でありつつも、新規があるといった点は非常に心強いと思う。

一方で課題としては、計画目標でいくと2と4が少ない部分があがる。

目標2でいくと、市民が様々な形で情報を得て参加していけるような環境づくりがまだまだ足りていない。

施策の中にも情報提供の充実というのがあるが、地域の現場において存在する問題が市民に共有されていくことでまちづくり活動への参加につながる。

関心がないのではなく、関心を持つにいたるまでの情報が十分に共有されていないといったところも原因の一つではないか。

部署間で共有されている情報を市民の方に伝えていく、例えばデータベースとしてオープンな形での提供も活動を作るきっかけになっている。

計画目標4についても同じことがいえる。

(2) 令和5年度市民参加に関する事業の実施状況調査(追加調査)について

■説明(事務局)

事務局より資料2-2について説明を行った。

■主な意見

委員：追加調査対象の「舞浜第一児童公園復旧計画住民ワークショップ」についてはニュースレターとしてワークショップ後に住民に対して再度アクションを起こせていると感じた。

ワークショップに参加している人は興味や関心をもっている方ばかりで、紋切型の対応はよくないと思っている。

委員：このような市民参加の手法をどの時期に実施したのか、どういう風な形で検討されたのかなどが見えてくると、妥当性が判断できやすいのでは。

例えば流山市での評価方法としては、各担当課が事業を実施するときに市民参加についての事前の計画書と事後の評価書を作成している。

その方法が良いかどうかは別としても、事業での市民参加の手法がどういう風な形で運用されているのか、妥当なのかというところは当該会議でも評価すべきところだと思うので、そのような意見をシートに記載いただきたい。

委員：「新町地域の公共施設用地等整備方針検討業務」については、新町地域の課題について元町・中町地域の市民の方々も関心を持って携わっていくためにはなにかあるのか。

事務局：担当課にワークショップの参加者について確認したところ、一般応募という形だと新町地域の方に偏ってしまうところもあったので、3,000人を無作為抽出し郵送で募集を行ったとのことである。地域ごとに1,000人ずつにわけ募集したた

め実際の参加者もそれぞれいらっしやる。

委員：そのような情報も、新規事業一覧に盛り込んでいただけるといい。

委員：市からのフィードバックについて、ワークショップや審議会などを開催した後に、ホームページでの掲載などは着実に行われているはずである。そこに簡単に市民の方がアクセスできるような仕組みを構築していけば、より市民の方にお伝えすることができるのではないか。

方法は問わずに、例えばメールの送付やプッシュすればアクセスできるような仕組みを考えたりしていければよいのでは。

委員：ウェブフォームなどの活用も一案として考えられる。

< 報告事項 >

(1) 次期市民参加推進計画に伴う市民意識調査の状況について

■ 説明（事務局）

事務局より資料 2 - 3 について説明を行った。

■ 主な意見

委員：詳細な結果報告はいつ行うのか。

事務局：今回は回収率やサンプル数のみの報告となっているが、来年の 2 月に開催予定の第 3 回市民参加推進会議では中間報告②という形で各設問のグラフ化したものに加え事実ベースでの分析を文章化したものと併せて報告する予定である。

委員：承知した。

全ての議題及び会議の議事録については会長一任とすることを承認いただき会議を終了した。